

まえがき

ラテンアメリカでは、21世紀に入ると多くの左派政権が登場し、注目を集めている。本書巻頭の地図を一見するだけで、ラテンアメリカで多くの国が左派政権により統治されていることがわかる。21世紀になってかくも多くの左派政権が登場した背景には、解消されない貧困問題や格差問題、1990年代にラテンアメリカを席卷した新自由主義への反動、強大な米国への反発等々が容易に想像される。

とはいえ、現在ラテンアメリカでの左派政権とみなされている諸政権は、社会主義ないし社会民主主義イデオロギーをもとに成立した社会党や社会民主党による政権に限定されるものではない。ボリビアやエクアドルでは社会運動を基盤とした政権が成立しており、アルゼンチンやペルーではポピュリズムに起源をもつ政権が成立している。ラテンアメリカにおいて左派とみられる勢力は多様であり、本書ではこのように歴史的に左派とみなされてきた多様な政治勢力を、ラテンアメリカの左派とみなし分析の対象とした。

そこで、これら左派政権がどのような背景で成立し、どのような政策を行っているのか。本当に1990年代の新自由主義への反動が現在の多数の左派政権をもたらしたのであろうか。また、実際の政策において、反米や経済民族主義的な言説がそのまま実行されているのであろうか。このような問いかけを通じて、ラテンアメリカの左派政権の実像に迫ることが本書の目的である。本書では左派政権を急進左派と穏健左派に大きく二つに分けたが、個別事例をみると、この二分法のなかには収まりきれない左派政権の多様性が浮き彫りとなってきた。

本書は長年ラテンアメリカ各国を研究する専門家が、最新の情報をもとに各左派政権の特徴を描き出そうとしたものである。本書をとおして、左派政権の実像と、現代ラテンアメリカの諸課題について、理解が深まると

すれば幸いである。なお本書を発行するにあたって組織された研究会に、講師として松下洋教授（京都女子大学）、アルトゥーロ・アルバラード教授（Arturo Alvarado Mendoza, メキシコ大学院大学）、ルイス・レネ・フェルナンデス＝タビオ教授（Luis René Fernández-Tabío, キューバ・ハバナ大学アメリカ合衆国研究所）をお招きし、ラテンアメリカの左派政権の分析に際しての貴重な示唆を頂いた。ここに感謝の意を表明したい。

なお、本書は2008年2月に終了した研究会の成果であり、基本的にそれまでの情勢を分析対象としたものとなっている。

2008年3月
編者

図 ラテンアメリカの左派政権



(注) 国名
大統領名
就任日 (任期)

(キューバは国家評議会議長)
枠内の網掛けは本書で取り上げた国

(出所) 各種資料から作成。